

# 大学生の車椅子利用者への援助行動に関する実験的研究 —対人距離と傍観者介入の影響—

○加茂川 文  
(新潟県立月ヶ岡特別支援学校)

有川 宏幸  
(新潟大学教育学部)

KEY WORDS : 車椅子 援助行動 他者の存在

## I. 問題と目的

行動を見る指標の一つとして、日常的に観察できる援助行動がある。しかし、健常者に対する援助行動の研究 (Lata ne&Darly, 1970) はあるものの、障害者に対する研究は見当たらない。一方で、障害者に対する意識や態度についての研究は数多く、困っていれば助けたいというような具体的な態度の得点は低かった (生川, 1995) ことなどから、援助行動に関して議論は行われている。また、態度が形成されたとしても、その態度が具体的な行動に結びつくかは明らかではない。それは人間の行動を決める要因は非常に多く、要因の特定が困難なためである (徳田, 2005)。

そこで本研究では、車椅子利用者に対して援助行動が行われる条件を明らかにすることを目的とした。

## II. 研究1—対人距離の影響—

### 1. 実験条件

本実験はA大学の学生49名を被験者とし、加えて車椅子利用者に扮した協力者 (以下「車椅子利用者条件」とする) と健常者として振舞う協力者 (以下「健常者条件」とする) が参加した。なお、協力者は以下「サクラ」と呼ぶ。

被験者は、Harada&Araragi (1981) を参考にし、1m, 2m, 3mの三条件で指定した席に座った。なお各条件を「車椅子利用者1m条件」「車椅子利用者2m条件」「車椅子利用者3m条件」「健常者1m条件」「健常者2m条件」「健常者3m条件」とした。

### 2. 実験シナリオ

「サクラ」が①床に落ちた鉛筆を拾う場面 (以下「場面1」)、②開き戸の部屋から退出する場面 (以下「場面2」)、の2場面を含めた一連のストーリーを完成させた。

### 3. 分析場面

#### (1) 援助生起率について

「場面1」において、それぞれの条件で被験者が鉛筆を1本以上拾ったら援助行動が生起したとみなした。「援助行動が生起した試行数÷(援助行動が生起した試行数+援助行動が生起しなかった試行数)×100」で算出した。

#### (2) 援助行動の内容について

「車椅子利用者条件」の場合、「場面1」の鉛筆を拾う援助行動の有無と、「場面2」において、「サクラ」が退出する際の3つ援助行動のうち、初発の援助行動について記録した。

1つ目は、「車椅子利用者」に扮したサクラがドアノブに手をかける前に開き戸を開ける「ドア開け」である。2つ目は、「車椅子利用者」に扮したサクラが退出しやすいように開き戸を押さえる「ドア押さえ」である。3つ目は、「車椅子利用者」に扮したサクラが演習室の外に出た時に、サクラがドアノブに手をかける前に開き戸を閉める「ドア閉め」である。

## 4. 結果

### (1) 援助生起率について

Table1 「車椅子利用者条件」			Table2 「健常者条件」		
	援助生起率	人数		援助生起率	人数
1m条件	87.5%	7/8人	1m条件	0%	0/8人
2m条件	100%	8/8人	2m条件	12.5%	1/8人
3m条件	88.89%	8/9人	3m条件	0%	0/8人

### (2) 援助行動の内容について

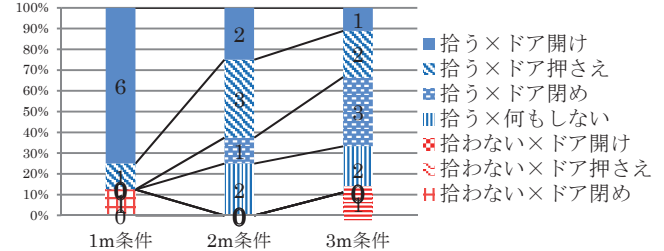


Fig.1 「鉛筆を拾う援助行動」と「三種類の援助行動」の組合せ

## III. 研究2—傍観者の影響—

### 1. 実験条件

本実験はA大学の学生22名を被験者とし、被験者以外に同室に誰か (以下「傍観者」とする) がいる場合では、援助行動は変化するのかを調べるために、「援助文脈あり傍観者条件」、「援助文脈なし傍観者条件」、「傍観者なし条件」の3条件で実験を行った。全ての条件において、対人距離は2mであり、分析場面・分析方法は研究1と同様であった。

### 2. 結果

#### (1) 援助生起率について

Table3 傍観者の有無や種類による援助生起率		
	援助生起率	人数
援助文脈あり傍観者条件	100%	7人中7人
援助文脈なし傍観者条件	85.71%	7人中6人
傍観者なし条件	100%	8人中8人

#### (2) 援助行動の内容について

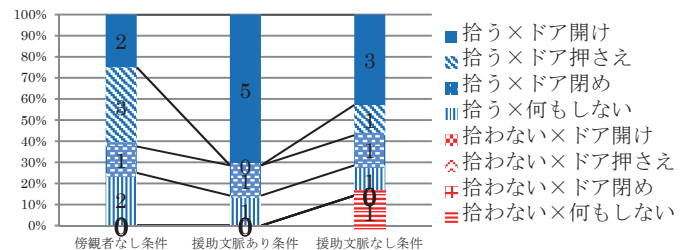


Fig.2 「鉛筆を拾う援助行動」と「三種類の援助行動」の組合せ

## IV. 考察

「サクラ」が車椅子利用者の場合に援助は行われやすく、加えて「傍観者」が事前に介助を行った場合、被験者は積極的な援助を行った。このことから、被験者が、場面1、場面2における当事者の様子ではなく、実験前の入室時の介助に注目したため、援助行動を行った可能性がある。

(KAMOGAWA Aya, ARIKAWA Hiroyuki)